



木山神社 拝殿、渡廊下 善覚稲荷 神社本殿、拝殿



指定区分	国登録有形文化財(建造物)
読みかた	きやまじんじゃ はいでん わたりろうか ぜんかくいなり じんじゃほんでん はいで ん
所在地	真庭市木山
指定年月日	平成29年10月27日
解説	<p>木山神社拝殿は、大正8年に現在の奥宮の場所で建てられ、昭和37年に現在の里宮に移築された。江川三郎八の設計で、入母屋造銅板葺、小屋組をトラスとし、唐破風造の三間向拝が取り付く。吹寄垂木の多用、たすき状の意匠など、江川の作品に特徴的な要素を多く見せる。木山神社渡廊下は、大正8年に建設され、昭和37年に移築された。拝殿の南面東端部と社務所を結ぶ渡廊下である。両下造銅板葺で、床に緩やかな起りを付け、高欄を配する。桁行方向各柱間には虹梁をかけ、妻部分にも湾曲の大きい虹梁をかけて、随所を彫刻で飾る。軒の垂木を吹寄せとするなど、拝殿と共通する意匠でまとめる。</p> <p>善覚稲荷神社本殿は、大正8年建設、昭和37年に移築された。桁行4.0m、梁間3.2m、切妻造銅板葺、平入で、四周に縁を廻らす。壁を二重に張り、柱は外側を円柱、内側を角柱とし、天井は格天井となっている。設計は江川三郎八で、垂木を吹寄せとするなど、境内の他の建物と共通する要素でまとめた。特色ある社殿建築である。善覚稲荷神社拝殿は、大正8年建設、昭和37年に移築され、木山神社拝殿の右方に並んで建つ。妻入の入母屋造銅板葺で、背面右方に神饌所、本殿との間に釣殿が附属する。江川三郎八の設計になり、吹寄垂木、特徴あるトラス架構、格天井など、その特徴をよく示すほか、正面側基礎石を洋風意匠とするなど特徴ある意匠を見せる。</p>
アクセス方法	・JR姫新線美作落合駅から車(タクシー)で7分・中国縦貫自動車道落合ICから車で5分
公開状況	・建物外観は常時公開・建物内の拝観については、お問い合わせください
設備	トイレ  駐車場 
備考	